

平成 29 年 5 月 26 日

各 位

株式会社 新生銀行
新生企業投資株式会社

フェムトグロース 2 号ファンドの設立について

株式会社新生銀行（東京都中央区、代表取締役社長 工藤 英之、以下、「新生銀行」）は、国内のアーリーステージのインターネット関連企業に対する投資と成長支援を行う「フェムトグロースファンド 2.0 投資事業有限責任組合」（以下、「2 号ファンド」）のリード投資家として、平成 29 年 4 月 27 日付で同組合契約を締結いたしました。新生銀行と新生企業投資株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 松原 一平、以下、「SCI」）がインターネット関連のベンチャー企業の投資、育成に多くの実績を有する磯崎哲也氏と共同で平成 25 年 4 月に設立したフェムトグロースキャピタル投資事業有限責任組合（以下、「1 号ファンド」）に続くものです。2 号ファンドはファンド総額を 40 億円とし、アーリーステージの企業に対する投資に加えて、ミドル、レイターのステージまでリード投資家として、1 社あたり最大 8 億円の継続投資をしていくのが特徴です。

2 号ファンドは、磯崎哲也氏などが出資するフェムトパートナーズ有限責任事業組合が無限責任組合員（GP）として運営し、新生銀行や大手金融機関、上場事業会社の有限責任組合員（LP）とともに、総額 40 億円で設立されます。SCI は、2 号ファンドに対する GP への人材派遣、投資先候補の紹介やファンドの運営および投資検討に対するアドバイスなどを通じて、2 号ファンドおよびその投資先の価値向上を GP とともに行います。

1 号ファンドでは、インターネットにおいてプラットフォームビジネスや金融サービスなどを行うアーリーステージのベンチャー企業を投資対象とし、1 社あたり最大 3 億 2 千万円の株式投資を行うとともに、磯崎氏が中心となって実践的な成長支援を提供してまいりました。この結果、平成 29 年 4 月までに飲食店のプラットフォーム事業を行う株式会社トレタなど 7 社に対する投資を実施しております。ベンチャー企業の事業環境については、平成 27 年度の国内企業へのファンド投資金額、ファンド投資件数ともに前年度から増加し、平成 27 年度に組成されたファンド本数や金額についても、平成 20 年のリーマン・ショック以降では最大となるなど[※]、1 号ファンド組成時よりも市場の規模は厚みを増し、ベンチャー企業にとっては資金を調達しやすい環境が整いつつあります。1 号ファンドで出資した 7 社についても、6 社が追加増資を行うなど順調に成長してきていることから、2 号ファンドでは投資対象となる企業のステージを拡大することいたしました。

新生銀行グループのプライベートエクイティ業務は、SCI を通じて、競争力と成長性の高いミドル・レイターステージのベンチャー企業に対する Pre-IPO 投資による積極的な成長資金の提供実績をベースに、近年は外部パートナーと連携して、アーリーステージのベンチャー企業に投資するファンドを組成し、インターネット、動画配信、再生医療、創薬、バイオセカンダリーなどの分野への投資に取り組んでおります。新生銀行と SCI では、今後とも SCI を通じて、多様な事業やステージに対応したプライベートエクイティ投資を推進してまいります。

※ 平成 27 年度の国内企業へのファンド投資金額は 874 億円（平成 26 年度 740 億円、対前年度比 118.1%）、ファンド投資件数は 1,162 件（平成 26 年度 969 件、対前年度比 193 件増加）。平成 27 年度組成ファンド本数は 51 本、金額 1,932 億円。（一般社団法人ベンチャーエンタープライズセンター発行「ベンチャー白書 2016」）

【本ファンドの概要】

名 称 : フェムトグロースファンド 2.0 投資事業有限責任組合
設 立 日 : 平成 29 年 4 月 27 日
出 資 総 額 : 40 億円
無限責任組合員 : フェムトパートナーズ有限責任事業組合
有限責任組合員 : 株式会社新生銀行、大手金融機関、上場事業会社
期 間 : 組合期間 10 年超まで延長可
投 資 対 象 : 東京を中心とする国内のインターネット関連企業

以 上